

株式会社椿本チエイン 2008年度 決算説明会



2009年5月20日

「2008年度 業績報告 および今期の見通し」

- 2008年度 業績報告
- 2009年度 見通し

代表取締役会長兼社長
福永 喬

2008年度 業績報告

1. 2008年度レビュー 決算のポイント

■ 下半期から事業環境が急激に悪化し、大幅な減収減益

■ 迅速なコスト削減により、利益は第3四半期時予想を上回る

(単位:百万円)

	2008年度 実績	2007年度 実績	増 減 (増減率)	
			対前期比	対予想比(09.02.06時点)
売上高	141,517	167,202	▲ 25,685 (▲ 15.4%)	▲ 3,483 (▲ 2.4%)
営業利益	9,095	19,805	▲ 10,710 (▲ 54.1%)	+ 695 (+ 8.2%)
経常利益	9,328	18,051	▲ 8,723 (▲ 48.3%)	+ 1,128 (+ 13.7%)
経常利益率	6.6%	10.8%	(▲ 4.2%)	(+ 16.5%)
当期純利益	6,188	10,371	▲ 4,183 (▲ 40.3%)	+ 2,088 (+ 50.9%)
自己資本比率	43.9%	40.3%	— —	— —
純D/E 比率	0.31	0.25	— —	— —
1株当り配当	8円	8円	前年度と同じ	— —

※実績為替レート : 1US\$ = 100.72円、1Euro = 144.07円

2. 2008年度レビュー 事業セグメント別内訳

■ パワトラ事業部門：チェーン、自動車部品の売上減と円高の影響により減収減益

■ マテハン事業部門：急激な設備投資の縮小により減収減益

(単位：百万円)

	2008年度 実績	2007年度 実績	増 減 (増減率)	
			対前期比	対予想比(09.02.06時点)
■ 売上高				
パワトラ事業部門	—GB数値(参考)—			
チェーン事業	43,900	49,800	▲ 5,900 (▲ 11.8%)	▲ 1,500 (▲ 3.3%)
精機事業	26,200	27,900	▲ 1,700 (▲ 6.1%)	▲ 600 (▲ 2.2%)
自動車部品事業	42,200	53,600	▲ 11,400 (▲ 21.3%)	▲ 800 (▲ 1.9%)
マテハン事業部門	—GB数値(参考)—			
マテハン事業	27,600	33,600	▲ 6,000 (▲ 17.9%)	▲ 700 (▲ 2.5%)
■ 営業利益率				
パワトラ事業部門	9.9%	14.5%	▲ 4.6%	
マテハン事業部門	6.3%	11.9%	▲ 5.6%	

※実績為替レート：1US\$ = 100.72円、1Euro = 144.07円

3. 2008年度レビュー 事業別営業の概況

■ 急激な事業環境の悪化に伴い 需要が大幅に減少し4事業とも厳しい状況

事業	概況
チェーン	<ul style="list-style-type: none"> ●国内は、鉄鋼業界向け(対前期比7.3%増)、工作機械業界向け(同30.0%減) ●海外は、U. S. TSUBAKI, INC. (米国)が対前期比20.6%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州)が同18.9%減となるなど、大きな落ち込み
精機	<ul style="list-style-type: none"> ●国内は、造船向けが堅調も、工作機械・自動車業界向けが不調 また上半期は好調に推移した鉄鋼・液晶IT関連向けが下半期に急減速 ●海外は、U. S. TSUBAKI, INC. (米国)が対前期比14.8%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州)が同14.9%減
自動車部品	<ul style="list-style-type: none"> ●TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE (SHANGHAI) CO., LTD.が対前期比30.3%増、 TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD.が同26.7%増と好調を維持 ●U. S. TSUBAKI, INC. (米国)が対前期比28.5%減 TSUBAKIMOTO EUROPE B. V. (欧州)が同27.2%減、国内も同17.1%減と減速
マテハン	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車業界向け塗装ライン搬送システムの売上が減少 ●粉粒体搬送設備はインド、中国を主とする海外セメント向けを中心に好調を維持 ●工作機械向けのチップコンベヤが下半期に急減速

4. 2008年度レビュー 所在地別セグメント

■ アジア・オセアニアは比較的堅調。
北米・欧州は大きく落ち込んだ。

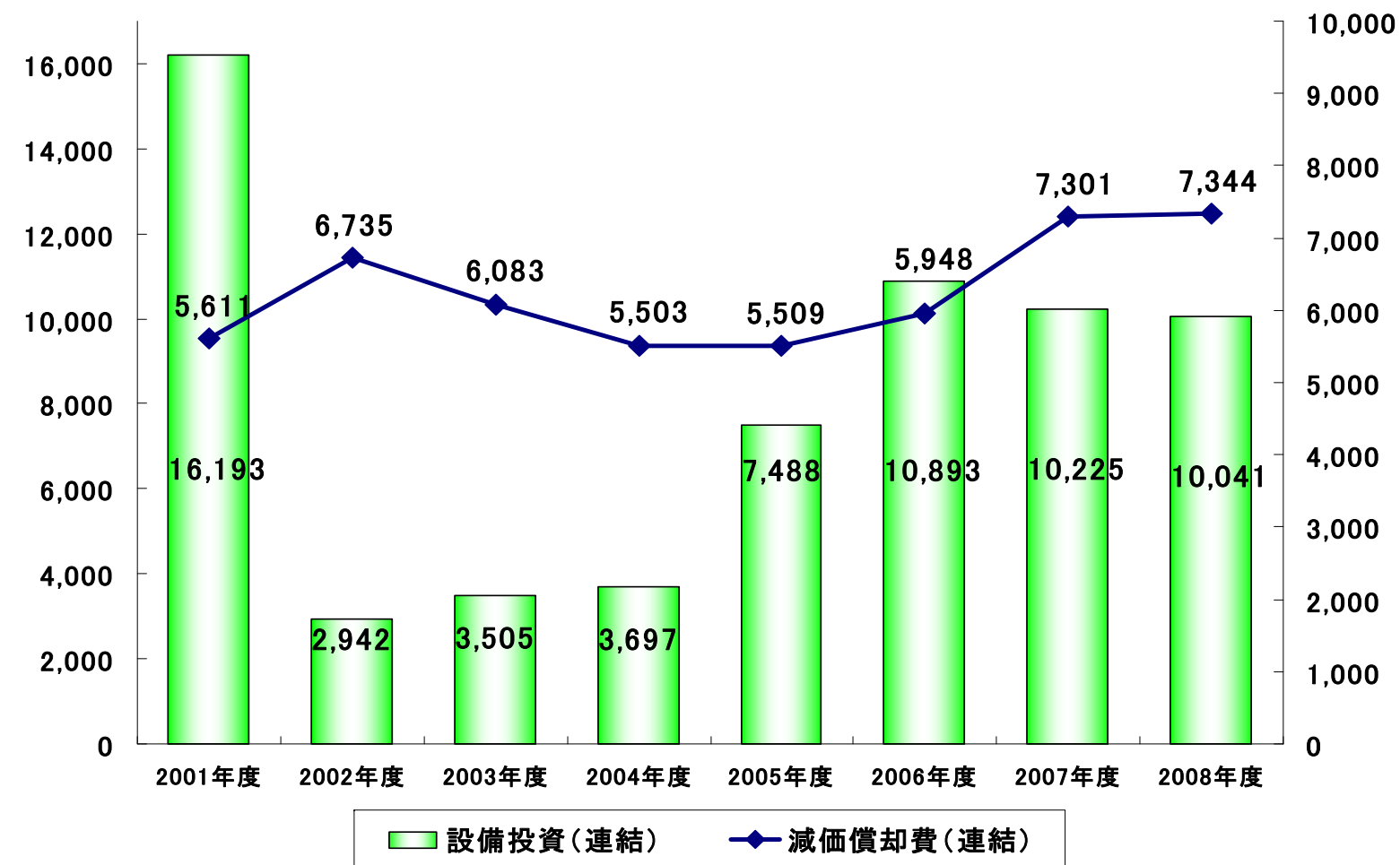
(単位:百万円)

		2008年度実績	2007年度実績	対前期比増減(増減率)
日 本	売上高	116,292	130,544	▲ 14,252 (▲ 10.9%)
	営業利益	10,047	16,485	▲ 6,438 (▲ 39.1%)
	営業利益率	8.6%	12.6%	(▲ 4.0%)
北 米	売上高	24,098	36,002	▲ 11,904 (▲ 33.1%)
	営業利益	861	3,145	▲ 2,284 (▲ 72.6%)
	営業利益率	3.6%	8.7%	(▲ 5.1%)
欧 州	売上高	7,370	10,070	▲ 2,700 (▲ 26.8%)
	営業利益	467	1,204	▲ 737 (▲ 61.2%)
	営業利益率	6.3%	12.0%	(▲ 5.7%)
アジア・オセアニア	売上高	12,485	11,966	+ 519 (+ 4.3%)
	営業利益	1,862	1,997	▲ 135 (▲ 6.8%)
	営業利益率	14.9%	16.7%	(+ 1.8%)
その他	売上高	143	327	▲ 184 (▲ 56.3%)
	営業利益	▲ 10	41	▲ 51 (▲ 124.4%)
	営業利益率	-	12.5%	(-)
連 結	売上高	141,517	167,202	▲ 25,685 (▲ 15.4%)
	営業利益	9,095	19,805	▲ 10,710 (▲ 54.1%)
	営業利益率	6.4%	11.8%	(▲ 5.4%)

5. 2008年度レビュー 設備投資・減価償却費

■ 急激な事業環境の悪化に伴い、下期より設備投資を抑制

期初予定額: 125億円 ➡ 2008年度実績: 100億円



2009年度 見通し

1. 2009年度 通期見通し

- 自動車生産の減産緩和等に伴う、下期からの緩やかな売上回復を見込むが、通期では22%の減収を予想
- 徹底したコスト削減を実施し、黒字を確保する

(単位:百万円)

	2009年度			参 考 (対前期比)	
	上期	下期	通期	2008年度実績	増 減 (増減率)
売 上 高	50,000	60,000	110,000	141,517	▲ 31,517 (▲ 22.3%)
-GB数値(参考)-					
チェーン事業	16,800	20,500	37,300	43,900	▲ 6,600 (▲ 15.0%)
精機事業	9,300	11,500	20,800	26,200	▲ 5,400 (▲ 20.6%)
自動車部品事業	13,500	16,900	30,400	42,200	▲ 11,800 (▲ 28.0%)
マテハン事業	9,400	11,000	20,400	27,600	▲ 7,200 (▲ 26.1%)
営業利益	▲ 2,800	3,600	800	9,095	▲ 8,295 (▲ 91.2%)
経常利益	▲ 2,700	3,400	700	9,328	▲ 8,628 (▲ 92.5%)
経常利益率	▲ 5.4%	5.7%	0.6%	5.7%	▲ 5.1%
当期純利益	▲ 1,600	1,900	300	6,188	▲ 5,888 (▲ 95.2%)

※想定為替レート : 1US\$ = 90円、1Euro = 115円

■「聖域なき業務改善によるコストダウン」の実施 ー徹底したコスト削減により利益を確保ー

●固定費削減と生産性向上

- ・投資内容厳選による設備投資抑制
(注力事業への戦略的資源配分と投資内容の厳選)
- ・人件費の圧縮 (役員報酬カット、幹部職の賃金カット、時間外勤務の削減、
一時帰休実施、非正規従業員の削減等)
- ・製造間接費の削減 (生産性向上と品質向上)

●商品の磨き上げと新商品の強化

- ・商品開発のスピードアップ

●グローバル・ベスト戦略の強化

- ・海外における適地生産・適地販売を促進し為替リスクを低減する
- ・日本人および海外現地社員を対象にグローバル人材を育成する

●新ビジネス

- ①太陽光発電業界向け拡販(チェーン・精機協業プロジェクト)
2010年度 5億円/年をめざす

●グローバル展開

- ①プラチェーンシリーズの世界販売
(つばきブランドの拡大→海外企業との技術提携、協業)
- ②マイニング用鉱山チェーンの拡販
(オーストラリア向け成功事例の横展開)

●新商品

- ①RSローラチェーンG7の全サイズ展開
- ②欧州向けBSローラチェーンのリニューアル
- ③低発塵・低騒音プラケーブルベヤ

●新ビジネス

- ①リニアモーションビジネス(機電一体)の展開
- ②太陽光発電業界向け拡販(チェーン・精機協業プロジェクト)

●グローバル展開

- ①マイニング市場(オーストラリア・ブラジルなど)
- ②海外鉄鋼業界(中国、韓国、台湾)
- ③海外業務提携の推進 (直線作動機、精密遊星減速機など)

●新商品

- ①コア技術の磨き上げと新商品の強化
 - 減速機 : ウォーム(含トロイドライブ)のリニューアル
精密遊星減速機新シリーズ
 - 直線作動機 : ジャッキの機種拡大

●シェア拡大

Survival & Growth : 世界No.1ブランドの品質と技術を顧客へ

- ①自動車技術棟新設による技術優位の拡大 <プロダクツイノベーション>
: 実車・実機評価技術の充実、製品機能評価の拡充
⇒ 先進市場向け環境対応、新興国向け低コスト新商品の開発に注力

- ②品質・生産技術優位の拡大 <プロセスイノベーション>
: 品質不良ゼロ、設備停止ゼロ
⇒ 生産・加工(精度・スピード向上)技術の開発

●新市場、新ビジネス

- ①環境関連分野、創薬関連分野への新商品投入
- ②メンテナンスビジネスの拡大

●グローバル展開

- ①東南アジア、ブラジルをはじめとした新興国への拡販

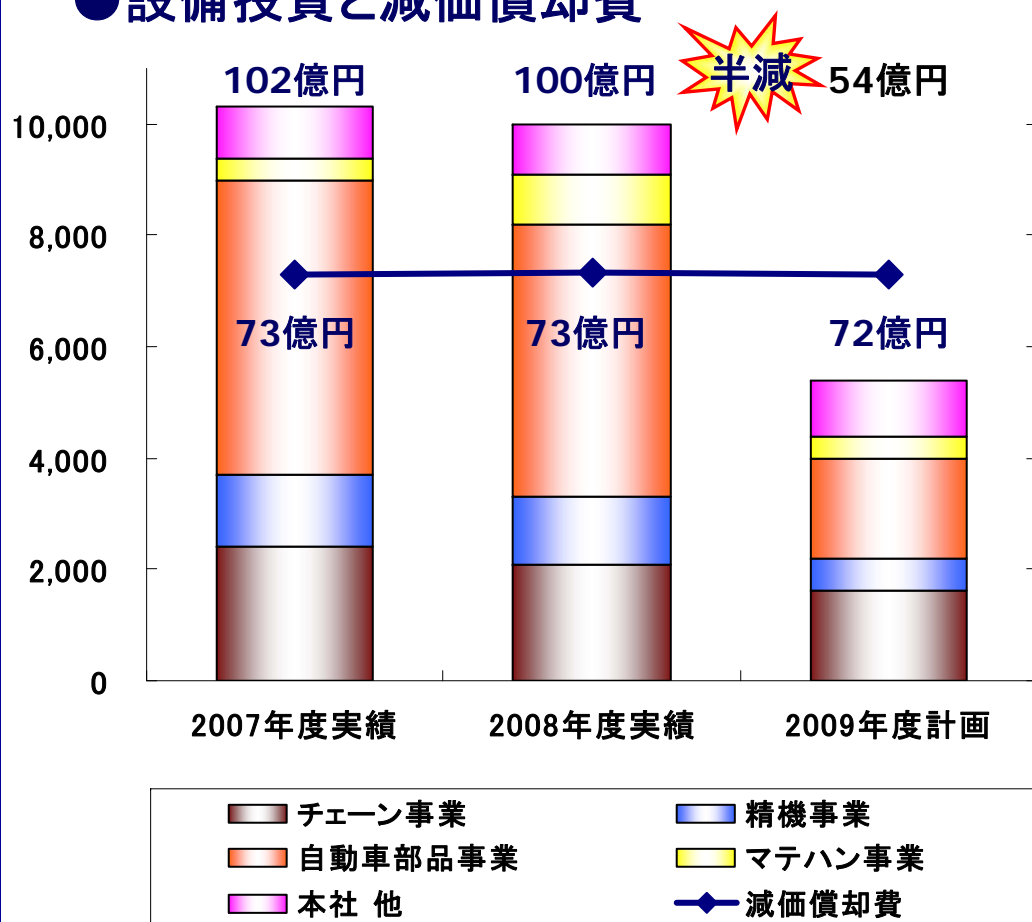
●コストダウンの徹底

- ①内製化の拡大(外部流出費削減)
- ②社内完成度向上→現地工事・試運転工数の削減
- ③出荷前検査の徹底・充実→クレーム費用の発生防止

4. 2009年度 設備投資について

■徹底した絞込みと同時に、次の成長を確実にするための投資を実行する

●設備投資と減価償却費



●主な設備投資と目的

- ①設備維持・更新 19億円
- ②研究開発・新商品 5億円
- ③品質保証・安全 6億円
- ④生産拡大・合理化 16億円
- ⑤管理・営業設備 8億円

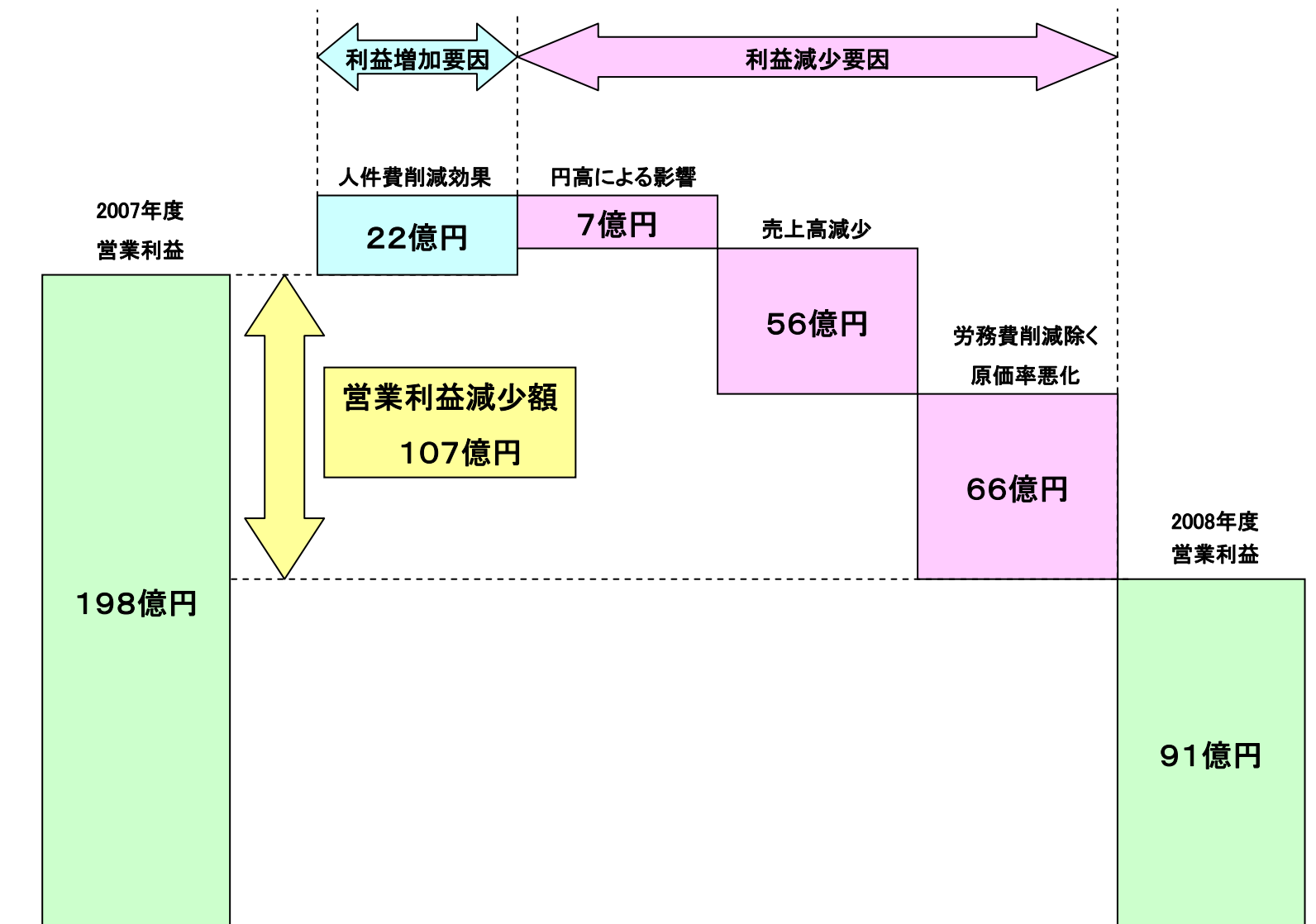
必要最小限の投資を実施

「2009年3月期 決算のポイント」

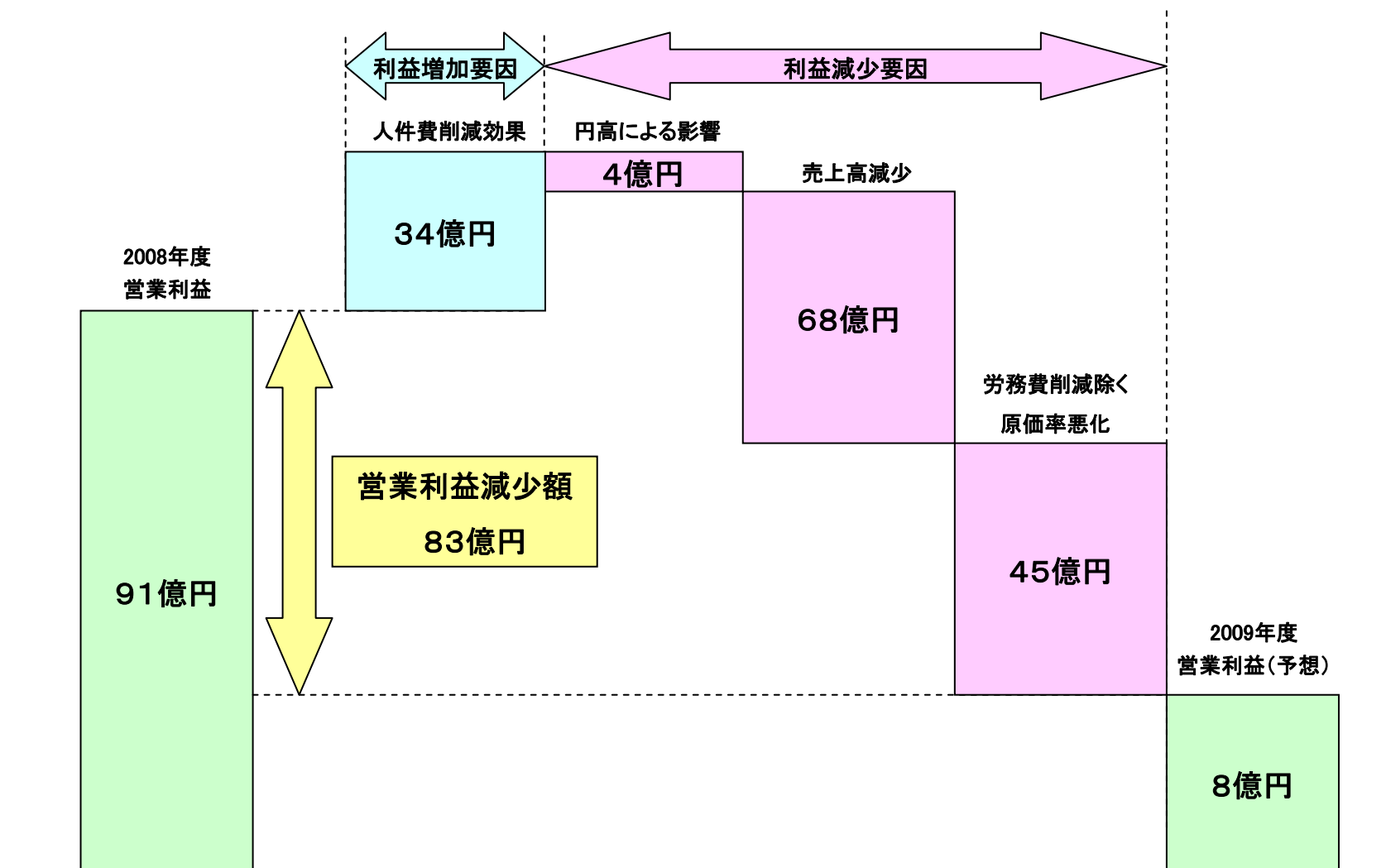
- 連結営業利益増減要因 2007年度通期と2008年度通期比較
- 連結営業利益増減要因 2008年度通期と2009年度通期予想比較

取締役常務執行役員
長 勇

1. 連結営業利益増減要因 2007年度通期と2008年度通期比較



2. 連結営業利益増減要因 2008年度通期と2009年度通期予想比較



本資料には、業績見通しおよび事業計画等を記載しております。

これらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などに基づいて作成しております。

したがって、各種要因により、これらの業績見通しとは異なる結果になりうることをご承知おき下さい。